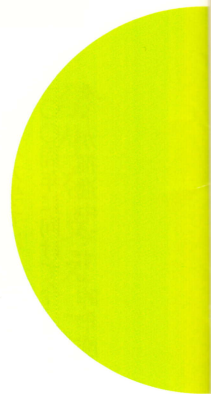


中京大学

保護者と教職員が協力し、学生をサポートする

教育後援会報

2018 vol.35



CHUKYO UNIVERSITY

中京大学ゼミ紹介

大学4年間の集大成となる卒業論文に向け、研究室に所属し、専門的な学びを深化させていくのが、演習(ゼミ・ゼミナール)です。担当教員による指導を受けながら、各自、研究テーマに主体的に取り組み、プレゼンテーションする力を育みます。



渡邊 航平准教授

国際教養学部
スポーツ・フィットネス(実技)、
健康科学(講義)、演習(ゼミ、卒論)担当

名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了。「高齢者の体力・運動機能(神経と筋肉の働き)」を主な研究テーマに、高齢者アカデミーの運営や産学連携事業など、広く研究成果の社会還元を目指す。



すぐれた言語運用能力と運動生理学の知識を身につけ、自らチャンスを掴んでいけるように

国際教養学部
渡邊ゼミ

国際教養学部では、2言語(英語+フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語のいずれか1言語)の運用能力を培うとともに、多彩な観点から国際社会への理解を深めています。そうした中で「運動、健康、身体、高齢者」という切り口から、各国におけるさまざまな課題にアプローチし、「国際社会」と「スポーツ・健康」の両分野にまたがる研究や学びを修めようというのが、私の研究室です。

所属する3年生13名(国際教養学部では、2年次から4年次まで持ち上がりで担当)のうち、11名が海外留学経験者であり、異文化を体験し、浮かび上がった素朴な疑問、たとえばフランスに留学した学生は、フランスパンの硬さに驚き、「咀嚼」をテーマに研究を始めました。ドイツに留学した学生は、世界最高峰のプロサッカーリーグに触れ、日本のJリーグとの運営の違いについて調査しています。海外に目を向けたことで、日本の食文化に興味を持ち、生理学的な観点からWASHOKUをテーマに卒業論文に向けた研究を進めている学生もいます。

また、当研究室では民間企業との共同研究も積極的に行っており、希望するゼミ生には生理学的手法を用いた研究はもちろん、企業や被験者とのコミュニケーションから事務的な手続きまで、責任ある役割を持たせて参画させています。

この夏、アイルランドで行われた国際学会には3名のゼミ生を帯同し、当研究室が商品開発に携わったトレーニング機器の展示スタッフとして活躍してもらいました。

今や超高齢社会という問題を抱えた日本にあって、多くの企業が「健康」や「長寿」といったキーワードに関連する新事業、商品、サービスの開発に取り組み、その動きを諸外国も大変注目しています。

これから先、すぐれた言語運用能力とスポーツ・健康に関する専門知識を併せ持つ彼らは、きっと国際社会においても強みを発揮していけることでしょう。

大学の研究室は、最先端の研究の場であると同時に、教育の場でもあります。ゼミ生が「自らのアクションでいろんなチャンスが掴める」ことを実感できるよう、企業との接点の中でさまざまな経験を積み、彼らが社会への扉を開く「きっかけ」を一つでも多く与えていきたいですね。

